寄書

秋の豐顯寺

戸塚　中島青崖

十月二日の例會は、豐顯寺に集ると聞て、朝飯もソコ〳〵に仕度に掛つた、此年四ツに成る、武夫と云ふのが、お父ツさん何處へ行くの、チヤセイ、あたいも行くのといふ、武ちやんは無花果を採て上げるから、待ておいでとなだめた。

無花果を落せば帽の上に露

斯くして、停車場に着くと、七時の汽車は出た跡だ、次の發車には、まだ間があるから、星眼君を誘ふ、**コスモス**の花二三輪咲き初めた計りの垣に添て、例の枝折戸を押し、玄關に佇めば、蕭として誰も見えぬ、勝手知つたる、横手の椽側に廻つて、直ぐ裏畑の盆栽棚の方を見たが、星眼君はあらぬ、僕は大きな聲をして、お早ふと言つたら、奥さんが出て來られて、アラ宿では最う北村さんと、お二人で出ましたよ、今日は貴君をお誘ひ申すのは、御病氣中故御遠慮申した方がよからうと、七時の上りで參りました、と承つては少し氣乘りがしなくなつたが、停車場迄戻つた。

仰き見る花コスモスや秋の晴

天氣はいよ〳〵快晴となつた、是では諸兄も平沼から、豐顯寺へ行かるゝに違ひない、神奈川からは廻りだが、道がよいと聞て、其方へ出掛けた、處が聞きしに反して、一歩は一歩より泥濘を極めて、進むべくもあらぬ、幾度も中途から、歸らうとは思つたが、氣を取り直して半里餘りも歩つた頃に、豐顯寺へはまだ餘程あるかと、村童に聞いた、何に直ぐ其處です、私と一所にお出なさいと、花束を風呂敷にくるんで、肩に掛けた小意氣な男が、突然僕の前に進むだ。

貴君は、東京からお出に成りましたかと、振り返つて聞かれし僕は、東京人と見られて、少し面喰つた、否、東海道からですと小聲で答へた、方丈樣は遂此の二三日前に、東京からお歸りに成りましたと、聞もせぬことをも彼れは饒舌る、僕が帽子を面深に冠つて、彼れには何だか、譯の分らぬ物を携へて居たから、大方修業の僧とでも、見たのであらう。

花賣とよき道連や秋の興

程なく豐顯寺に着た、聞きしに違はぬ、關東の名刹である、だら〳〵上りの兩側には、丈高き櫻の古木が行儀よく並で、而してまばらな葉に、秋の色をほのめかして居る、右すれば門があつて、正面に本堂があり、本堂の手前に、庫裡がある、だら〳〵上りを眞直に進むで、少さな赤門を入れば、三百坪餘の平地に出る、此處にも澤山の櫻樹があつて、數十年の春秋を示して居る、尙石段を昇れば、鐘樓あり、道場あり、更に右すれば尙大なる道場があつて、三方は鬱蒼たる松の大樹林である、樹木と云ひ、道場と云ひ、數百年の星霜を閲せしものと偲ばれた。

道場に鼠も住まず柿の秋

百舌鳥鳴くや寂寞の堂に聞くこだま

此の幽邃なる仙境に立つ者は、僕の外誰も居らぬ、疲れは出る、筆をとる元氣がない、下山と決して元來し道をたどる。

左りは杉木立の、低い暗い山林で、右は高い畑の畦である、中窪の徑は、日光を受けぬから、泥濘は頗る深い、此道筋ての難場であらう、夫れをも厭はず、芒や葛などを手折りつゝ、向ふから二人の美人が來た、一人は廿五六のやさかたの奥さん風、一人は廿一二の色白の令孃風で、何れも縮緬の變り色の、羽織などを着て居る、そも此二人は、何者であらう、此處らあたりを、徘徊するからは、狐狸の變化では、あるまいかと思つた。併し天は、近來珍らしき秋日和と、此の美くしき二嬌とを、出現せしめて、遠來の僕を、慰めて呉れたのであらう。

穂芒や美人のいとゞすごき笑み

歸りは道の近きを覺え、横濱へ廻つて、家に着たは、午後三時過であつた。

パレットに空の調子や秋の夕

要塞地帶より　下關　S、YVSHI生

關門海峽の風光は實に明媚であります然し砲臺が多いので、風光の美は其十分の一も描現す事は出來ません、又下關市内には川が無い、隨つて風景は平凡です、けれ共、一歩郊外に出ると隨分面白い處もありますが、何分市内は勿論豐浦郡一帶、九州では門司、小倉、若松など皆要塞地帶でありますから、手續せずに寫生して居ると大に失敗致します、諸氏が、若し當地方面に遊ばれたら、左の如く和英二樣に書てある目標を見られるでありませう。

許可無くして要塞地帶内及其外方三千五百間以内に於て水陸の形狀を測量、撮影、摸寫、錄取する事を禁ず犯したる者は法律に依り處分せらる可し　陸軍省

それで、寫生するには必ず許可證携帶の上で無てはいけません許可證は、當地要塞司令部へ願書持參、又は返信料封入で申込ので御座います、日光では一週三圓の許可證料を取ると、石川先生の御話にありましたが、當地司令部では無料で下附されます、參考の爲め左に願書の書方を示して筆を置ます。

寫生願

一、目的、何々研究の爲
一、區域、何處
一、期限、明治何年何月より何月まで

右御許可相成度要塞地帶法施行親則に依り此段奉願候也

年月日　住所　氏名㊞

下關要塞司令部
何誰殿

下諏訪の一日　鎌倉　堀谷ワツトマン

朝早く、スケツチ箱を肩に懸け、三脚を携へて宿を出で町外れを二三丁を進めば、晝尙暗き森林あり、樹木は日光を遮り、單